



長谷部 竜作
議員

公共交通について

問 乗合タクシーについて、季節や曜日、混雑する時間帯を予想しての増配車は可能か。

答 総務部長 乗合タクシーは、利用者の需要実績等を踏まえ、山武地域4台、成東地域3台、松尾・蓮沼地域2台の計9台で運行しています。時間帯、曜日等によっては混雑をする事があり、運行状況によって、特に予約が多い地区が発生した場合、需要の少ない地域のタクシーを応援に回すといった弾力的な配車を行っています。

また、あらかじめ混雑する時間帯を予想しての増配車については、今後検討させていただきたい



乗合タクシー『あいのりくん』

と思います。
問 乗合タクシーの移動範囲を、市内全域にすることはできないのか。

答 総務部長 乗合タクシーを運行する区域が広範囲になると、利用者おひとりにかかる所要時間が長くなり、結果的にご利用いただける人数

が少なくなつて、かえつて予約がとりにくく、ご不便をおかけしてしまうおそれがあります。

市の制度設計としては、乗合タクシーは買い物や通院といった日常生活に、基幹バスは、各地域の拠点、また主要な施設を結ぶ交通機関として運行するなど、それぞれの特性を生かした運行を行っています。したがって、現在は、区域を分けて運行することが望ましいと考えています。

問 市長は、市の公共交通の将来像を、どのように考えているのか。

答 市長 公共交通の重要性は、高齢化社会の中で、大変重要なものであり続けるだろうと思いますし、高齢化率が進めば、需要も多くなつていくと思います。

一方で、ニーズと費用の問題は出てくると思います。人口密度が減つていく中で、将来どのような公共交通を確保していくのか。市の面積が変わ



基幹バス『さんバス』

らない中で路線を確保していくと、逆に利用率は下がる可能性も見ていかなければならぬ。一概にサービスを向上させて

若者の就労支援について

問 近隣の市町と合同で、就職面接会を開催しているが、その面接会の現状はどうか。

答 経済環境部長 就職面接会は、ハローワークの協力を得て、平成24年度からは、隣接する東金市、横芝光町、山武市と3市町合同で、毎年

いくというお答えを返せないと思つています。様々な考え方を組み合わせながら、サービスレベルとその費用を十分検討し、バランスのとれた公共交通を構築して、維持をしていくという形になると思います。

そういうことで、私は、100%バラ色というお答えは返せません。皆様方のお声を十分お聞きしながら、コストパフォーマンスの高い制度設計を、ずっと探つていくということになるかと思つています。

採用内定に結びつかなかったと思われま

問 若い世代の定住・移住の促進のため、何が必要か、市長の考えはどうか。

答 市長 生産人口（若い世代）は、限られた人口であり、さまざまな自治体が競つて、補助制度等を新設して、奪い合うという形になれば、日本全体の国力から考えたときに、果たして日本全体の今の人口減少を食い止めることに有効になるかどうか、私としては、限られたものの奪い合いに、力を入れることは余り正しくはないと思つて

います。
人口減少を食い止めるには、産んでいただくことが大事だと思つています。若い人が結婚をし、子どもを産んで、育てていく、といった未来に希望を持てるような地域を作っていくということに、力を入れるべきだと思います。これが私の考え方です。